

## 研究論文の作成の仕方 (全国算数・数学教育研究(岐阜)大会 中数部会バージョン)

H27.4.22 地区連絡会担当者会

岐阜県は中数部会として、実践研究論文をこれまで以上に皆様に分かりやすく筋の通った論文にしていくために、実践研究論文の書き方をある程度統一したものにしていきたいと考えています。もちろん、あくまでも標準形ですので、この通り書く必要はありません。本来、研究の方向に沿って書いていただくべきものですので、書式はあわせていただきますが、項立てについては、各都市で検討していただけるとよいと思います。

### 【書き方の概要】

- 論文の冒頭(1ページ目)に「研究主題(必要に応じて副主題)、都市名、所属、代表者名」を記述する。その下に、研究の概要を記述し、重点となる言葉を「キーワード」として、羅列する。(46字×10行程度)
- 用紙はA4版縦向き。論文の本文は、2段組の横書きで、文字サイズは10.5ポイント～12ポイントを目安として、フォントは明朝体を基本として書く。(2段組 22字×43行)
- 余白は、上28mm、下26mm、左右25mm程度とする。
- ヘッダーには、分科会名、フッターにはページ番号を入れる。
- 図表等は、「表1」「図1」のような一連番号と「A男のカード」というような「図表名」を必ずつける。
- 参考文献は、出典を明らかにし、論文の最後に年代順に一括記載する。そのまま引用する場合もあるので、区別して記述するとよい。
- 論文の最後に、共同研究者の氏名(所属)を入れる。
- 添付資料は、巻頭に入れてもよい。なお、資料のヘッダーには、「資料①」「資料②」と入れ、フッターには、「資料①-1」「資料①-2」とページ数を入れる。

【研究の項立て】(例) “大会特集号”の項立てと合わせてあります。

1. 研究のねらい(主題設定の理由、生徒の実態、願う生徒の姿など)
2. 研究の内容(研究内容、実践など)  
(研究仮説は、概要に書いてあるので、重複するためなしでよい。)
3. まとめ(仮説の検証、成果と課題、今後の研究の方向も指し示しながら)

参考文献・引用文献

研究同人

資料